

こたまたコラム (矢作新報社への寄稿内容)

師走を迎え、今年も残す所あと僅かとなりましたが、皆様に於かれましては如何お過ごしでしょうか。

今年一年を振り返って見ますと、本当に様々な出来事がございましたが、その中でも特にアメリカ大統領選挙について、今回は触れさせて頂きたいと思えます。

選挙前には、私も含めて多くの皆さんが民主党のヒラリー・クリントン氏が女性初の大統領に選出されるだろうと予想されていたと思いますが、結果はご存じの通り、共和党のドナルド・トランプ氏が次期大統領に決定した訳であります。では何故トランプ氏が勝利したのか？

ニュース等でも様々な分析が行われていましたが、私が思うに、遠く離れた日本からでは想像できない程に、今のアメリカは閉塞感が蔓延し、現状の政治を根本から変えて欲しいと願う多くのアメリカ国民の支持によって、トランプ氏は勝利を勝ち得たのではないかと思います。

選挙戦を通じて、トランプ氏は「アメリカ・ファースト」、つまり、アメリカさえ良ければ他の国はどうなっても良いという主張を繰り返してきましたが、確かに、日本においてもアジア諸国の急激な成長により、国内産業の空洞化が懸念されていますが、だからといって鎖国政策を復活したとしても、今以上の経済成長は望めるものではありません。

むしろ、他国と協力し合い、自国の弱点を補い合う関係、つまりwin・winの関係を構築する事こそが、結果的には自国の利益に繋がるのではないのでしょうか。

グローバル化が更に進む中で、アメリカが今後どの様な政策をとっていくのかにより、産業立県である我が県の経済は大きく左右される事になりますので、その動向を注視し対応してまいります。



愛知県議会議員

こたまた よしかず

樹神 義和